

グループ⑦	ファシリテーター: 飯塚由記(水戸医療センター)
テーマ	教育について
参加者	6名 現在指導立場にある方、指導経験のある方、教育に感心のある方、中堅～ベテラン
内容	<p>&lt;情報交換&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6月現在で新人の進捗状況はどのようなレベルであるか、新人指導をどのように実践しているのか。(数年ぶりに新人看護師を受け入れた施設の方より質問) →「先輩のフォロー付きで数種類の器械出しが行える」レベル、「先輩のフォローがなくても一人で器械出し介助の実践が行える手術がある」レベルなど、施設や新人によって異なっていたが、とても大きな差はなかった。 教育プランは年間スケジュールを立て計画的に進めている施設では、外回りから開始、器械出しから開始、様々であり、その後も半年後に外回りから器械出しなど役割を変える施設、1年は同じ役割の施設と様々であった。共通していたのは、チェックリストを活用している点であったが、どのように使用するかについて意見や情報交換が行われた。新人看護師の配属人数も施設によって異なっていた。</li> <li>指導担当者(プリセプターなど)と新人の勤務が合わない場合、他のスタッフが新人指導を行う。新人の進捗状況が把握できず、困ることがある。どのように対応しているのか。 →新人が現在の進捗状況を記した表にチェックをしている施設が多かった。進捗状況の表の活用方法は、新人が管理して当日指導担当になるスタッフに見せたり、手術室のリーダーが把握できるようホワイトボードに掲示したりと様々であった。</li> <li>現在手術室の人手不足、手術件数が多い中、新人に対して日々の振り返りを行う時間の確保をどのように行っているのか。また振り返りを行う上でのポイントはありますか。 →手術終了、患者退室後に、なるべくその日のうちに振り返りを行う施設がほとんどであった。勤務時間外に少しの時間をとって行う施設や、または勤務内に、例えば器械の片づけ等の業務を行いながら、など、なるべく時間をとることが新人の負担にならないよう配慮していた。その他、振り返りのポイントが明確に的をついたものになるように、手術介助につく前にその日の目標確認を新人と教育担当者で行い、振り返りはその目標に沿って行っている施設もあった。また、新人のモチベーションを上げるためにも、できなかったところの指摘だけでなく、必ずできているところをフィードバックするよう意識している参加者の方もいた。</li> </ol>
感想	<p>施設は異なるも、同じ悩みを皆様お持ちであり、それぞれのご施設の情報を交換することで、課題や解決策のヒントを頂きました。私も特に新人指導に対して時間がない中での情報伝達やフィードバックの工夫について、参考になりました。また講義を受けてからのグループワークでしたが、皆様が「指導を受ける側と指導側の関係」や「独話でなく対話」を意識された内容であったと感じました。</p> <p>ZOOMでのグループワークは初めての方もいらっしゃいましたが、活発な意見交換ができました。皆様から教育に対して真剣な想いや元気を感じました。1台のPCで3名のご参加をしてくださったご施設の方もいらっしゃいました。どうもありがとうございました。</p>